

「生涯学習・社会教育関係職員研修講座（西北地区研修）」

日時：平成27年9月10日（木） 会場：五所川原市中央公民館

1. 講義：「既存施設の活用と住民のネットワークを生かした地域の活性化について」

生涯学習・社会教育関係職員研修講座（西北地区研修）が9月10日（木）、五所川原市中央公民館で実施されました。約25名の社会教育関係職員が参加し研修が行われました。午前中の講義では、弘前大学大学院地域社会研究科研究科長 **北原啓司教授**より「既存施設の活用と住民のネットワークを生かした地域の活性化について」というテーマで講義していただき、北上市、盛岡市、富山市、弘前市、十和田市など様々な都市を例に取り上げ、幅広い知識を基に時間をかけて丁寧に講義していただきました。受講者は興味深いお話に引き込まれていました。

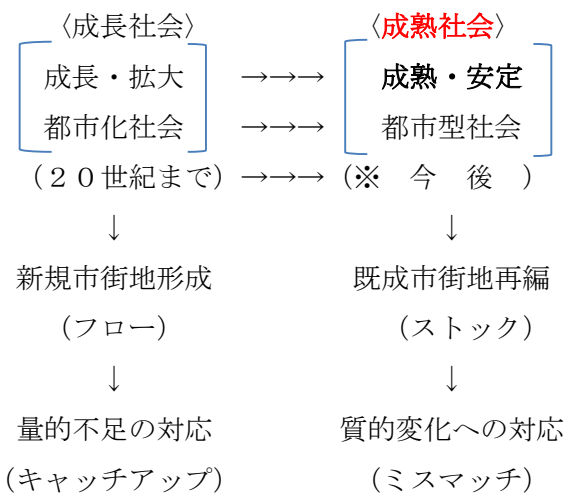
【北原教授の講義①】



【北原教授の講義②】



【 成長社会から成熟社会へのシフト 】



【まち育て】

自分たちの空間を育てていくという発想。

【サードプレイス（第三の場所）】

自分たちの「場所」を持ちたいと考える人々に愛され、親しまれる公共施設。

【コンパクトシティ】

コンパクトなライフスタイルの実践。新しい施設をつくり出す考え方ではなく、これまでの施設をうまくいかしていくこと。

既存施設をうまく使いながら、充分機能する施設として整備する。新築ではなく機能の整備をするなど**前向きに既存施設を利用する**ことが、これからは必要となってくる。

2. 演習：「既存施設の活用と住民のネットワークを生かした地域の活性化について」

引き続き、弘前大学大学院地域社会研究科研究科長 **北原啓司教授**よりグループワークでの演習が行われました。受講者の方々は時折、笑顔を見せながら和やかな雰囲気で行われました。演習ではグループ内のメンバーが各市町村の現状や課題などの意見を出し合い、各班ごとに発表していただき、最後に北原啓司教授にまとめていただきました。

【各班発表①】



【各班発表②】



【各班発表③】



【各班発表④】



「**まち育て**」はエンドレスである。つくる前から、できた後までつながるのが「まち育て」である。つくる前から、「**参加**」があるから、できた後にも、「参加」が生まれる。丁寧につくって、上手に使って、工夫しながら持続させていく、それが**ファシリティマネジメント**である。

〈 講師プロフィール 〉



北原 啓司 氏 (弘前大学大学院地域社会研究科 研究科長・教授)

- 1979年 東北大学工学部建築学科卒業
- 1985年 東北大学工学部建築学科助手
- 2003年 弘前大学教育学部教授
- 2004年 弘前大学教育学部副学部長
- 2014年 弘前大学大学院地域社会研究科研究科長